



みなみっ子

学校教育目標

○かしこく

○やさしく

○たくましく

34号

令和7年12月10日(水)

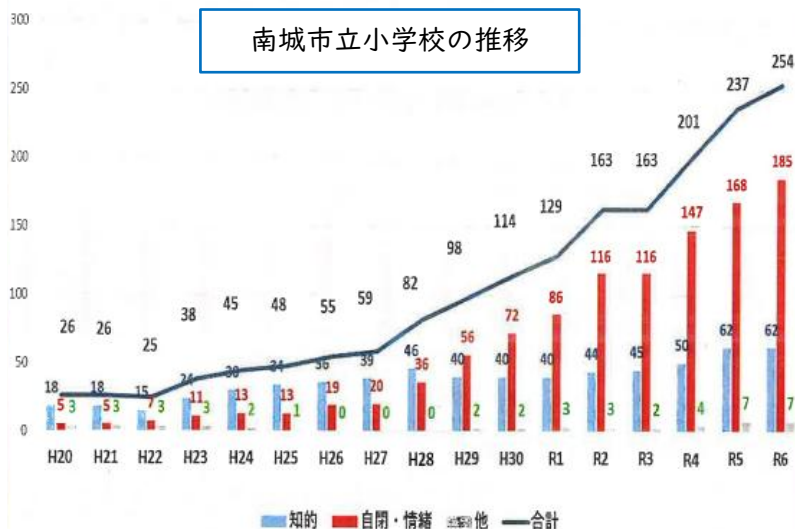
南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

特別支援教育について

特別支援学級児童数（小学校）

南城市立小学校の推移



左図は南城市内の特別支援学級の児童数の推移です。全国でも特別支援学級の在籍児童は増加傾向にあります。沖縄県や南城市においても同様の傾向にあります。沖縄県における特別支援学級在籍児童の割合は全国と比較してかなり高い状況にあります。本市の状況も全国と比較し、かなり高い割合になっています。特に増加傾向が高いのは、自閉情緒学級の在籍児童が増えています。

この増加については割合が高くなっていることだけをとって課題であるとは言えません。特別支援教育についての理解が広がったとも言えます。

しかし、日本や世界の大きな流れとしてはインクルーシブの考え方です。簡潔に言うと障害があるないに関わらず共に学ぶ、共生社会の実現に向かう教育です。

「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system)とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。

全ての子が参加でき、分かる、そして楽しい授業の構築

私たち学校では、通常学級においても「全ての子が参加でき、分かる、そして楽しい授業づくり」に取り組み始めています。これは、通常学級在籍児童の中にも、成長のこぼこは当たり前であり、学習に前向きな子、逆に後ろ向きな子、出来る子、達成が厳しい子など子どもたちの状況は多様にあります。

このような状況であるにも関わらず、教師の一方的な説明や、手立ての無いままの個別学習やグループ学習などを実施すると多くの子どもたちは困ってしまいます。

そこで、私たちは誰一人取り残さないために、全ての子が参加でき、分かるやできるを味わえるような授業が展開できるように授業改善に努めています。

特別支援教育の多層的な指導

1 ステージ

全ての子どもに効果的な指導を実施

2 ステージ

1 ステージのみでは伸びが厳しい子どもへの補充的な指導の実施（補充学習）

3 ステージ

1 ステージ、2 ステージでは伸びが厳しい子どもへの特化した指導

学校全体で方向性を共有し、困っている子どもへの丁寧な対応に努めます。

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践と「全ての子が参加でき、分かる、そして楽しい授業づくり」

文科省が推進している授業「主体的・対話的で深い学び」を追究すると、「全ての子が参加でき、分かる、そして楽しい授業」になると思います。学級の中での成長の違い、学習に対する意欲の違いなどがあることが当たり前です。そこでこぼこがあることをマイナスに捉えず、高め合える状況だと捉えることだと思います。例えば問題を解ける子が必ずしも深く理解しているとか限らないことが多く、その状態の子に分からない子が素朴に質問することで、概念の理解まで達成できることが期待できます。例：時速を求める時、「速さ＝道のり÷時間」の公式が分かり時速を求めることができたとしても、その速さの概念の理解が出来ているとは限りません。グループでのやりとりをすることで、その概念理解がしっかりしたものになります。教師が教えるのではなく、子どもたちが、自分たちで概念を見いだすことが大切なポイントになります。

